

第25回V・ファーレン長崎支援会長崎支部会議事録要約

V・ファーレン長崎支援会運営部会長：平鍋公二

下記の通りご報告申し上げます。

1：日時 2012年9月19日（水） 19:00～21:00

2：会場 長崎市市民会館第3会議室

3：参加者 溝口透馬部長（V・V長崎）、大山支部長、藤原運営委員長（支援会）一般参加：14名（総17名）

4：議題

- (1) V・ファーレン長崎からの報告の件
- (2) V・ファーレン長崎支援会からの報告の件
- (3) サクセスパートナー制度の現状と今後の件
- (4) 9/17観戦者アンケート実施の件
- (5) ボランティア制度についての件

5：概要

- (1) V・ファーレン長崎からの報告の件
 - ・第25節公式戦設営準備に対する支援会への協力謝礼が述べられ、今後の試合についての説明がなされた。
- (2) V・ファーレン長崎支援会からの報告の件
 - ・県選手権決勝戦会場での公式戦告知チラシ配布とJFL第25節前日準備への支援会の協力が報告された。
 - ・支援会で9月29日にホームタウン清掃活動として、柿泊競技場周辺の清掃を行う事が決定した。
 - ・「長崎市にサッカー専用施設建設を求める署名活動」の方針が説明され9/17より始まった事が報告された。
- (3) サクセスパートナー制度の現状と今後の件
 - ・公式戦でのブース出店にあたり要綱・手引きの作成が提案された。
 - ・来期以降のサクセスパートナー制度への提言を次回の支援会で協議する事とした。
- (4) 9/17観戦者アンケート実施の件
 - ・運営ボランティア、回答者の積極的な協力の許で224の回答があった事が報告された。
 - ・台風の影響で9/17アンケート回答者が長崎市に隔たる懸念から9/29簡易アンケート実施が提案された。
- (5) ボランティア制度についての件
 - ・ボランティア制度自体の不備を指摘する意見が報告された。
 - ・来年へ向けてボランティアのシーズン前研修などについてのクラブ方針が報告された。
 - ・現状のボランティア制度についてアンケート実施の提案がなされた。

6.次回日程：

- ・第5回支援会諫早部会 10月2日（火）19：30～ 諫早市社会福祉会館 2階会議室
 - ・第26回支援会長崎部会 10月17日（水）19:00～ 長崎市市民会館
 - ・第27回支援会長崎部会 11月14日（水）19:00～ 長崎市市民会館
- （以上）

第 25 回 V・ファーレン長崎支援会長崎支部会議事経過及び所見

V・ファーレン長崎支援会運営部会長：平鍋公二

1：議事経過及び所見

(1) V・ファーレン長崎からの報告の件：

議事経過： 冒頭、溝口部長より JFL 第 25 節の試合設営準備への協力に対して謝意が述べられ、続いて第 25 節の公式戦についての報告がなされた。その後、今後のクラブ方針についての説明がなされた。

(2) V・ファーレン長崎支援会からの報告の件：

議事経過： 藤原運営委員長より 8 月 26 日の長崎県選手権決勝戦会場で V・ファーレン長崎の公式戦告知チラシが配布された事が報告された。9 月 16 日に翌 17 日の JFL 第 25 節公式戦設営準備協力を行った事が報告された。

続いて、福島美由紀氏より支援会で 9 月 29 日の公式戦後に予定しているホームタウン清掃活動「ホームタウン清掃活動～愛してる、かきどまり～」について実施時間を 17：40 から約 30 分行う事が発表された。またクラブで運営補助を行っている後藤氏と協議の結果、かきどまり陸上競技場周辺と同競技場から第 2 駐車場シャトルバス発着所までの通路とする事とした。

その後、藤原運営委員長より 9 月 17 日より再開された「長崎市にサッカー専用施設を建設する署名活動」にスタジアム建設の必要性や今後の方針について説明がなされた。また、クラブに対しても積極的な活動を促すよう申し入れがあり了承された。

(3) サクセスパートナー制度の現状と今後についての件：

議事経過： 新大工商店街関係者より JFL 第 25 節のホームゲームで商店街が出店を予定していたが台風の余波で断念した事の報告がなされ、出店にあたり、「販売を見合わせてほしい商品が非常に多かった事」への懸念が示された。溝口部長より、「他ブースとの商品競合を避ける為の措置である」事が説明され、理解を求めるよう回答がなされた。藤原運営委員長より、出店要綱や出店手引きが存在するのかとの質問に対して、溝口部長より、現在、緊急的に要綱を作成している事が回答された。一般参加者より、出店要綱や手引きが無いままの運営が問題であるとの発言がなされ、溝口部長も反省点として自覚し、今後は制度を整備してしっかりやっていきたいとの回答がなされた。

続けて新大工商店街より、サクセスパートナーとしてのメリットがまだまだ低い事が説明され、他町へ同制度を広げる為に更なる充実を求める声が挙がった。一方で、一般参加者より「徐々に新大工は V・ファーレンを応援している」という印象は広がっており、短期的なメリットを今は期待すべきではないとの声も挙がった。藤原運営委員長より来年へ向けてのサクセスパートナー制度へ向けての提言やアイデアを次回の第 26 回支援会で協議する事が提案され了承された。

(4) 9/17 観戦者アンケート実施の件についての件：

議事経過： 支援会の寶來英世氏より9/17のホームゲームで観戦者アンケートが開催された事が発表され、224の回答があった事、運営ボランティアの積極的な協力に対して感謝が述べられた。また、雨と強風の中で積極的に回答に協力してくれる観衆の様子からアンケートの実施が観客に対して「ここがホームだ」という意識を喚起していたようだとの意見が述べられた。

藤原運営委員長より、アンケート当日が台風通過直後の為に回答者が長崎市民に隔たる可能性が指摘され、比較する参考データとして9月29日のホームゲームでシールを使った対面式の簡易観戦者アンケートを実施したい旨が説明された。

(5) ボランティア制度についての件：

議事経過： 藤原運営委員長よりボランティア制度について意見が募られ、一般参加者より現状の試合運営が「営業を行うイベント開催のレベルに達していない」との感想が述べられた。学生ボランティアが多く、何をすれば良いか解っておらず、指示もない中で活動を行ってる為に、観客に対する対応が出来ていない現状が報告され、入場口は運営の顔であり、学生ボランティアに任せて指導もない現状では最低限の運営しか出来ない事が指摘された。

また、実際にボランティアリーダーを務める岸川氏より、シーズン前に研修会が行われた事が過去1度だけである事が説明され、そういった取り組みが必要との声が挙がった。クラブで運営を担当する後藤氏が現状に問題がある事を認めた上で、今シーズンは時間がない為に来シーズンに研修などを行いたいとの方針が説明された。

一般参加者よりクラブがボランティアをどう位置づけて受け入れようとしているのか判らないとの意見があがり、藤原運営委員長よりクラブにボランティアに対する確固とした要綱や方針があるのかとの質問がなされ、溝口運営部長より、基本的な物はあるが、確固した物としては整備されていない現状が説明された。

一般参加者よりボランティアの現状を理解する為のアンケート実施の提案がなされ検討していく事とした。また、ボランティア制度については次回の支援会で継続協議をする事とした。

藤原運営委員長より今後の支援会スケジュールが説明され閉会した。

- ・第5回V・ファーレン長崎支援会諫早支部会：10月2日（火）19：30～ 諫早市社会福祉会館2F会議室
- ・第26回V・ファーレン長崎支援会長崎支部会：10月17日（水）19:00～21:00 長崎市市民会館
- ・第27回V・ファーレン長崎支援会長崎支部会：11月14日（水）19:00～21:00 長崎市市民会館

（以上）

V・ファーレン長崎支援会運営部
vvnnsienkai@yahoo.co.jp